

新基地建設反対名護共同センターニュース

「辺野古新基地建設工事差し止め訴訟」 知事を支え、必ず勝利しよう！



「オール沖縄県民会議」は20日、翁長雄志知事が6月県議会に辺野古新基地建設工事差し止め訴訟の関連議案を提出したことを受け、県民広場で緊急支援集会を開催しました。約200人が集まり、「翁長知事を支え、裁判で勝利しよう」と声を上げました。

稲嶺進名護市長は「政府が大掛かりで県民の思いを押しつぶそうと襲いかかっているが、絶対に負けない。翁長知事を支え、辺野古新基地を止めるまで頑張ろう」とあいさつしました。(写真下)

「試合中のルール変更は許されない！」
岩礁破碎許可のない工事は中止せよ



裁判で実質審理させよう

県議会与党の各会派代表などが決意を表明。日本共産党の渡久地修典議長は「知事をオール沖縄で支え、裁判闘争を勝ち抜くため団結を固め、裁判で実質審理に入らせよう」と運動の強化を訴えました。

集会に参加した那覇市内の女性は「自分たちに都合のよくなるように試合中にルールを変える政府のやり方は許せません。裁判の傍聴や集会に参加するなどして知事を支えていきたい」と話していました。参加者は両手を組み、沖縄式の頑張ろう三唱で散会しました。

明治学院大・熊本教授「岩礁破碎には知事許可が必要」



「大浦湾はだれのもの？」オール沖縄会議がシンポ

辺野古新基地をつくらせないオール沖縄会議は18日、名護市内でシンポジウムを行い200人の市民が参加(写真左)。基調講演で明治学院大学の熊本一規教授は「漁協が“漁業権の一部放棄”しても漁業権の権利は変わらない」と指摘。「普通自動車の免許取得者が原付自転車の資格だけ放棄することはできない。漁業権の一部放棄も同じで法的効力はない」と話しました。同教授はまた、「立ち入り禁止区域」と定めた水域は公共用水面でなくなったため、公有水面埋立法に基づく「埋め立て承認」は法的根拠を失った、と強調しました。海人の会・西銘仁正代表も基地建設阻止を訴えました。

ゲート前では元気に座り込み続く



毎月のように京都から駆けつけ、座り込む人々の前で歌声を披露する川口真由美さん

ゲート前には連日、県内外から座り込み
 この間、梅雨の影響で大雨の日が続きましたが、キャンプ・シュワブのゲート前では連日、県内外から数十人〜200人が座り込み、「違法工事は中止せよ！」と元気に抗議の声を上げています。21日午前中は約160人が参加。京都から「辺野古の歌姫」・川口真由美さんが駆けつけ「ケセラ」など数曲を披露し、参加者に勇気を与えました。



沖縄～長崎コーススタート

2017年国民平和大行進の沖縄～長崎コースが18日、名護市二見からスタートしました。赤嶺政賢衆院議員が挨拶、稲嶺進名護市長がメッセージを寄せました。